

護しようとするものではないが、この時代の礼論、礼説の問題を検討し、その問題点と、問題とする方向と、問題に対する論証をおしすすめていくいき方をこまかく考究することによって、魏晉人は礼觀念をいかにとらえたか、またいかにとらえようとしたかを明らかにし、魏晉をひとしなみに礼教の弛廢、風俗の混濁と規定する見解を再検討しようとするものである。礼制の細密化、ないしその合理化の傾向は、しばらく措き、主として礼觀念を問題とした。また錯雜した論説は、当然その論者が立っている場(社会的基盤をも含めて)からセバレートすべきであるが、それもしばらく措き、一つの試論として、中国文化意識史の一コマとしての魏晉の文化觀念を考へたい。

大正文学に於ける中国女性像

——森鷗外「魚玄機」について——

杉 森 正 弥

《漢文》に造詣深く、中国を見聞もしてきたこの文豪が、中国の女性像をめぐりに描きつつも、辛亥革命の直後、第一次世界大戦のさ中において、現実の中国女性に注目してはなかつたこと。

王世貞と袁宏道

松 下 忠

学界の通念としては、王世貞は古文辞派格調説の主張者、袁宏道は反古文辞派性靈説の主張者として真向から対立する人物と理解されているのではない

かと思う。然るに両者の主張には、類似点が極めて多い。この事は例えば、(1)性靈の語の使用、(2)詩文變遷論、(3)学問教養、(4)復古の説、(5)白蘇に対する私淑、(6)その他詩文論に於ける具体例等に於て証明することが出来る。然らば両者の間には如何なる密接な交渉が有ったかという点が問題になると思うが、その証拠は適確にかむことが困難である、而して本論考の場合に、そのような証拠の有無は必ずしも問題にしなくとも良いと思う。以上の諸項について考察し、結論として、〔I〕性靈説の先唱は王世貞であること。〔II〕更に思い切つて表現すると、袁宏道の性靈の基盤は王世貞の詩人論であることを明らかにしたい。

高等学校に於ける

漢文教育の問題点

大 野 知 二

1. 学校に於ける、カリキュラム編成上の問題点
2. 漢文に対する、認識上の問題点について
3. 教科書の單元配置における問題点について
4. 漢字との関連における問題点について
5. 漢文法の取扱における問題点について
6. 学習活動における問題点について
 - (イ) 社会科的学習が望ましいのではないか
 - (ロ) 補助教材の使用について
7. 漢文を国語科の中に入れるべきかについて

学 会 彙 報

○昭和三十三年度漢文学会総会次第(六月三十日)

〔研究発表会〕

一、沈亜之と小説

(新潟大) 内山 知也氏

一、鄭人精神の一考察

(教育大) 緒形 暢夫氏

一、詩人としての曹丕の評価

(教育大) 鈴木 修次氏

一、魏晉玄学の実相

(北学大) 加賀 栄治氏

一、幼主の服忌に関する鳳岡と白石との

論争について (香川大) 藤川 正教氏

一、論語の外題について

(東学大) 新美 保秀氏

一、兒女英雄伝のおもしろさ

(北学大) 杉森 正弥氏

一、漢文(中国文)及び漢文学(中国学)の

理想的教育体制 (福井大) 寺岡 竜含氏

〔講演〕

一、民国、初・中期の経学観とその資料

(教育大) 内野熊一郎氏

〔総会〕

一、報告

1. 庶務報告 鈴木委員

2. 研究報告

鎌田委員、前野委員

3. 会計報告

安居委員

○昭和三十三年度月例会

△十一月例会(十六日)

雜誌会 鈴木 修次氏

吉川幸次郎「阮籍の詠懷詩について」

——中国文学報 5号・6号

發表会 新美 保秀氏

日本文学に影響した論語並に我国古伝の論語

△十二月例会(廿一日)

雜誌会 今井宇三郎氏

「易卦源於龜卜考」(屈万里)

(歴史語言研究所集刊、第廿七本民国四五)

研究会 飯田 利行氏

誤読せる二、三の詩文について

△十一月例会(十八日)

雜誌会 中村 璋八氏

「中国古代哲学論双」文、史、哲(一九五七、九)

楊向奎「中国奴隶制萌芽时期的天道觀」

楊向奎「五行說的起源及其演變」

楊 超「先秦陰陽五行說」

發表会 伊藤 文定氏

「聖証論考」

△二月例会(廿二日)

研究發表会

術より見たる黄老

宮体詩について 摺河 昭彦氏

魯迅の評價について 田部井文雄氏

飯田 吉郎氏

○昭和三十三年漢文学会総会(六月廿九日)

「研究發表会」

一、王弼繫辭伝注の存在について 藤原 高男氏

一、書道博物館藏甲骨文字貞人の一考察

一、衛人精神について

一、米沢本黄善夫刊本史記の特色について

青木木菟哉氏 緒形 暢夫氏

水沢 利忠氏

一、魏晉の礼説に現れたる一傾向 加賀 栄治氏

一、隸釈に現われた喪服礼の諸問題 藤川 正教氏

一、大正文学に於ける中国女性像 杉森 正弥氏

——森鷗外「魚玄機」について—— 松下 忠氏

一、王世貞と袁宏道

(漢文教育討論会)

問題提起者「高等学校漢文教者に於ける問題点」

(都立北野高校) 長谷川節三氏

(向丘高校) 大野 知二氏

(赤城台高校) 月洞 護氏

(教育大附属高校) 大木 春基氏

() 尾関富太郎氏

○昭和三十三年度月例会

△十二月例会(六日)

一、發表会

対句鑑賞發生試論

——特に千載集佳句成立以後に於ける対句に対する意義——

菅野 礼行氏

△二月例会(七日)

一、史記老子伝批判の変遷並びに私見

(史記老子伝の一考察) 緒形暢夫氏

二、敵復の天演論をめぐる若干の問題

木村郁二郎氏

○昭和三十三年漢文学関係講義

(一) 一般教育科目

内野 教授 漢文学講読(思想)

小林 教授 (文学)

(二) 一般語学

牛島 助教授 中国語一(講読)

北浦 講師 (文法作文)

陳東海 講師 中国語一(講読)

中国語一()

中国語二()

中国語二()

中国語()